



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)DPL掛川 新築工事	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点		取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5			ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.3	/5			がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5			ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4	/5			がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			得点		3.8	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①複層サッシによる温熱環境向上 ④主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑被率を30%以上。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上				
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦複層サッシを採用しBPI _{in} を0.69とした。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。	LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制				
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪手洗いに自動水栓を採用し、便器は節水タイプを設置した。 ⑫フロアパネル、再生アスファルト、再生材料を用いた舗装用ブロックなどリサイクル材を使用した。 ⑬OAフロアの採用、躯体と仕上りが容易に分別可能。 ⑬断熱材にODP=0.01未満かつGWPが低い発泡剤を使用した。	LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒				
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策を行いライフサイクルCO2排出率を抑えた。	LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善					
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			得点		2.3	
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備				
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)			得点		3.0	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高を3.9m以上とした。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ				
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上				
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)			得点		2.4	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地を多くとり緑被率を30%以上とした。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ⑥ ② まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上				
	■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) ⑮高効率な設備を採用した。	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善				

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DPL掛川 新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県掛川市	構造	S造
用途地域	22条区域	平均居住人員	268 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年3月12日
敷地面積	44,254 m ²	作成者	和井田 彰
建築面積	19,350 m ²	確認日	
延床面積	34,969 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー LR3 敷地外環境</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>ほぼ全面に化学汚染物質の少ないF☆☆☆☆の建材を使用し、完全に区画され常時負圧となる喫煙室を設けることで屋内の空気環境の向上に配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>事務所は高い天井高と、十分な広さの休憩室を設けることで執務環境の向上に配慮した。建物全体では階高3.9m以上、壁長さ比率0.06という非常に自由度の高い空間とすることで、将来の様々な状況への対応性や更新性に配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>外構の60%近くを緑化することで周辺の環境や景観に配慮した。敷地内は見通しを良くし、防犯カメラを設置することで防犯性に配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物の外皮性能をBPIm0.69とし、高い断熱性能を確保することで熱負荷抑制を行い、設備システムも効率化を行いBEIm0.55とすることで、一次エネルギー消費性能の大幅な向上に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型の設備を採用することで水資源保護に配慮した。躯体以外にリサイクル品を多用し、再利用可能な建材を使用することで非再生資源の使用量削減に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>熱損失の防止と設備の効率化により大気への排熱量削減に配慮した。十分な台数の駐車スペースを確保することで地域インフラへの負荷抑制に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたたい